

○学校法人東亜大学学園寄附行為

昭和49年2月18日
文部大臣認可

最終改正 令和元年10月11日

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、学校法人東亜大学学園と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を山口県下関市一の宮学園町2番1号に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| (1) 東亜大学大学院 | 総合学術研究科 | |
| | 通信制大学院 | 総合学術研究科 |
| (2) 東亜大学 | 医療学部 | 医療工学科 |
| | | 健康栄養学科 |
| | 芸術学部 | アート・デザイン学科 |
| | | トータルビューティ学科 |
| | 人間科学部 | 人間社会学科 |
| | | 心理臨床・子ども学科 |
| | | 国際交流学科 |
| | | スポーツ健康学科 |

(その他の施設)

第4条の2 この法人は、次に掲げる看護師養成所を設置する。

学校法人東亜大学学園附属看護学院

(業務)

第4条の3 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 放送法による委託放送業務
- (2) 前号に掲げる業務に附帯する業務

第4条の4 この法人は、その収益を学校の経営に充てるため、不動産貸付業を行う。

第3章 役員及び理事会

(役員)

第5条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 7人ないし8人

(2) 監事 2人

2 理事のうち1名を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 理事（理事長を除く。）のうち1名を専務理事とすることができる。専務理事は理事総数の過半数の議決により選任する。専務理事の職を解任するときも、同様とする。

（理事の選任）

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 東亜大学学長

(2) 評議員のうちから評議員会において選任したもの 2人

(3) 学識経験者のうち理事会において選任したもの 4人ないし5人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

3 この法人の理事のうちには、各理事についてその親族その他特殊の関係がある者が1人を超えて含まれることにはならない。

（監事の選任）

第7条 監事は、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）、職員（学長、教員その他の職員を含む。以下同じ。）又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。この場合において、各監事は相互に親族その他特殊の関係があってはならない。

（役員任期）

第8条 役員（第6条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は4年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

（役員補充）

第9条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超えるものが欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

（役員解任及び退任）

第10条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき。

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

(3) 職務上の義務に著しく違反したとき。

(4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 役員は次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了

(2) 辞任

(3) 学校教育法第9条各号に掲げる事由に該当するに至ったとき。

(役員報酬)

第10条の2 役員報酬は、別に定める。

(理事長職務)

第11条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(専務理事職務)

第12条 専務理事は、この法人の全ての業務について、この法人を代表し、理事長を補佐し、この法人の業務を掌理する。

(理事の代表権の制限)

第13条 理事長及び専務理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第14条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、専務理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

2 専務理事に事故があるとき、又は専務理事が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に従い、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事の職務)

第15条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

(1) この法人の業務を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。

(4) 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。

(5) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。

(6) この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

(理事会)

第16条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、学校法人の業務を決定し、理事の職務の執行を監督する。

3 理事会は、理事長が招集する。

4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。

5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理

事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第17条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(議事録)

- 第18条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。
- 2 議事録には、出席した理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

- 第19条 この法人に、評議員会を置く。
- 2 評議員会は、17人以上20人以内の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内にこれを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第20条 第18条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員2人以上」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第21条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 予算、借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- (2) 事業計画
- (3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (4) 寄附行為の変更
- (5) 合併
- (6) 目的たる事業の成功の不能による解散
- (7) 寄附金品の募集に関する事項
- (8) 収益事業に関する重要事項
- (9) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
(評議員会の意見具申等)

第22条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第23条 評議員は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) この法人の職員で理事会において推せんされた者のうちから、評議員会において選任した者 2人
- (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上の者のうちから、理事会において選任した者 2人
- (3) 私学教育に識見を有する者のうちから、理事会において選任した者 13人以上、16人以内

2 前項第1号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

3 第6条第3項及び第10条の2の規定は、評議員について準用する。

(任期)

第24条 評議員の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第25条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
 - (2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。
- 2 評議員は次の事由によって退任する。
- (1) 任期の満了
 - (2) 辞任

第5章 資産及び会計

(資産)

第26条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第27条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産及び収益事業財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 収益事業財産は、この法人の収益を目的とする事業に必要な財産とし、財産目録中収益事業財産の部に記載する財産及び将来収益事業用財産とする。
- 5 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産及び収益事業財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第28条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第29条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第30条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第31条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

- 2 この法人の会計は、学校の経営に関する会計（以下「学校会計」という。）及び収益事業に関する会計（以下「収益事業会計」という。）に区分するものとする。

(予算及び事業計画)

第32条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第33条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

（決算及び実績の報告）

第34条 この法人の決算は、毎会計年度終了後2月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

（財産目録等の備付け及び閲覧）

第35条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類及び第15条第3号の監査報告書を各事務所に備えて置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

（資産総額の変更登記）

第36条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後3月以内に登記しなければならない。

（会計年度）

第37条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終るものとする。

第6章 解散及び合併

（解散）

第38条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

(1) 理事会における理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決

(2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の3分の2以上の議決

(3) 合併

(4) 破産

(5) 文部科学大臣の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあつては、文部科学大臣の認定を受けなければならない。

（残余財産の帰属者）

第39条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席した理事の3分の2以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益法人に帰属する。

（合併）

第40条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第7章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第41条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第8章 補則

(書類及び帳簿の備付)

第42条 この法人は、第35条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に各事務所に備えて置かなければならない。

- (1) 寄附行為
- (2) 役員及び評議員の名簿及び履歴書
- (3) 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- (4) その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第43条 この法人の公告は、学校法人東亜大学学園事務所の掲示板に掲示して行う。

(施行細則)

第44条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

- 1 この寄附行為は、文部大臣の認可の日（昭和49年2月18日）から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理 事	(理事長)	櫛 田 薫
理 事		井 上 吉 之
理 事		林 恵 海
理 事		館 良 雄
理 事		藤 下 長 俊
監 事		山 崎 次 昭
監 事		三 好 軍 司

附 則（昭和52年9月5日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（昭和52年9月5日）から施行する。

附 則（昭和56年1月16日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（昭和56年1月16日）から施行する。

附 則（平成4年3月19日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成4年3月19日）から施行する。

附 則（平成４年１２月２１日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成４年１２月２１日）から施行する。

附 則（平成６年１２月２１日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成６年１２月２１日）から施行する。

附 則（平成９年１２月１９日）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成９年１２月１９日）から施行する。

附 則（平成１０年５月１３日認可）

この寄附行為は、文部大臣の認可書到達の日（平成１０年５月１８日）から施行する。

附 則（平成１１年３月２３日認可）

（施行期日）

- 1 この寄附行為は、平成１１年４月１日から施行する。
（学科名称変更に伴う経過措置）
- 2 この寄附行為の施行の日の前日に現に工学部組織工学科に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則（平成１１年１２月２２日認可）

この寄附行為は、文部大臣の認可の日（平成１１年１２月２２日）から施行する。

附 則（平成１２年５月２４日認可）

平成１２年５月２４日文部大臣認可のこの寄附行為は、認可書到達の日（平成１２年６月１日）から施行する。

附 則（平成１５年２月１４日認可）

（施行期日）

- 1 平成１５年２月１４日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成１５年４月１日から施行する。
（東亜大学工学部システム工学科及び生命科学工学科の存続に関する経過措置）
- 2 東亜大学工学部のシステム工学科及び生命科学工学科は、改正後の寄附行為第４条第２号の規定にかかわらず平成１５年３月３１日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成１５年９月１０日認可）

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成１５年９月１０日）から施行する。

附 則（平成１５年１１月８日変更）

この寄附行為は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年3月31日認可）

平成16年3月31日文科科学大臣の認可のこの寄附行為は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日認可）

- 1 この寄附行為は、文科科学大臣の認可の日（平成17年4月1日）から施行する。
- 2 改正前の寄附行為第21条第1項第2号により選任された評議員の任期は、任期満了までの期間継続するものとする。

附 則（平成18年12月16日変更）

この寄附行為は、理事会承認の日（平成18年12月16日）から施行する。

附 則（平成19年3月28日変更）

平成19年3月28日理事会承認のこの寄附行為は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年12月22日変更）

平成19年12月22日理事会承認のこの寄附行為は、平成20年1月1日から施行する。

附 則（平成20年2月23日変更）

平成20年2月23日理事会承認のこの寄附行為は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年9月20日変更）

（施行期日）

- 1 平成20年9月20日理事会承認のこの寄附行為は、平成21年4月1日から施行する。
（東亜大学医療工学部の存続に関する経過措置）
- 2 東亜大学医療工学部は、改正後の寄附行為第4条第2号の規定にかかわらず平成21年3月31日に当該学部在籍する者が当該学部在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成21年4月18日変更）

この寄附行為は、平成21年4月18日から施行する。

附 則（平成23年9月24日変更）

（施行期日）

- 1 平成23年9月24日理事会承認のこの寄附行為は、平成24年4月1日から施行する。
（東亜大学の医療学部の医療栄養学科及びデザイン学部並びにデザイン学科の存続に関する経過措置）
- 2 東亜大学の医療学部の医療栄養学科及びデザイン学部並びにデザイン学科は、改正後の寄附行為第4条第2号の規定にかかわらず平成24年3月31日に当該学部学科に在籍する者

が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成24年5月26日変更）

この寄附行為は、平成24年5月26日から施行する。

附 則（平成25年5月14日認可）

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成25年5月14日）から施行する。

附 則（平成25年5月25日変更）

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成25年5月25日）から施行する。

附 則（平成29年8月1日変更）

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成29年8月1日）から施行する。

附 則（令和元年10月11日変更）

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和元年10月11日）から施行する。